

山下ふ頭再開発について

地元対応と開発基本計画検討委員会について、現在の状況をご報告します。

1 地元対応について

(1) 対応状況

- ・平成26年6月26日に第1回説明会を土地・建物所有者、公共上屋等の専用使用者56社を対象に開催した後に、各店社と第1回個別面談を実施
- ・平成26年10月20日に第2回説明会を開催し、個別面談で頂いたご意見等について、対応方針を説明した後に、第2回個別面談を実施

(2) 第2回説明会での説明内容

再開発を進めていく上での、現時点における市の基本的な考え方を提案しました。

- ・平成32(2020)年一部供用（第1期）のエリア範囲（次ページ図1）
- ・営業できる期限 第1期エリア：平成29年3月31日
第1期以外のエリア：平成34年3月31日
- ・倉庫の移転用地は、新山下地区、南本牧Eブロックの2か所（次ページ図2）を想定しており、その他の用地は、港頭地区内で幅広く検討しています。

(3) 第2回個別面談での主なご意見

- ・休業すると各店社は得意先を失うので、地区外で代替営業場所が確保出来るまで、山下ふ頭での営業を続けたい。
- ・倉庫の特性に応じた設計・工事期間を考慮して、第1期エリアで営業できる期限を見直して欲しい。
- ・倉庫の移転用地は示されているが、公共上屋の代替営業場所を早く示して欲しい。
- ・現在の物流と一部供用する新しい街との交通動線や境界の考え方を示して欲しい。

(4) 今後の対応

個別面談でのご意見等を踏まえ、第3回説明会を平成27年2月16日に開催し、引き続き地元の皆様との協議を進めてまいります。

図1

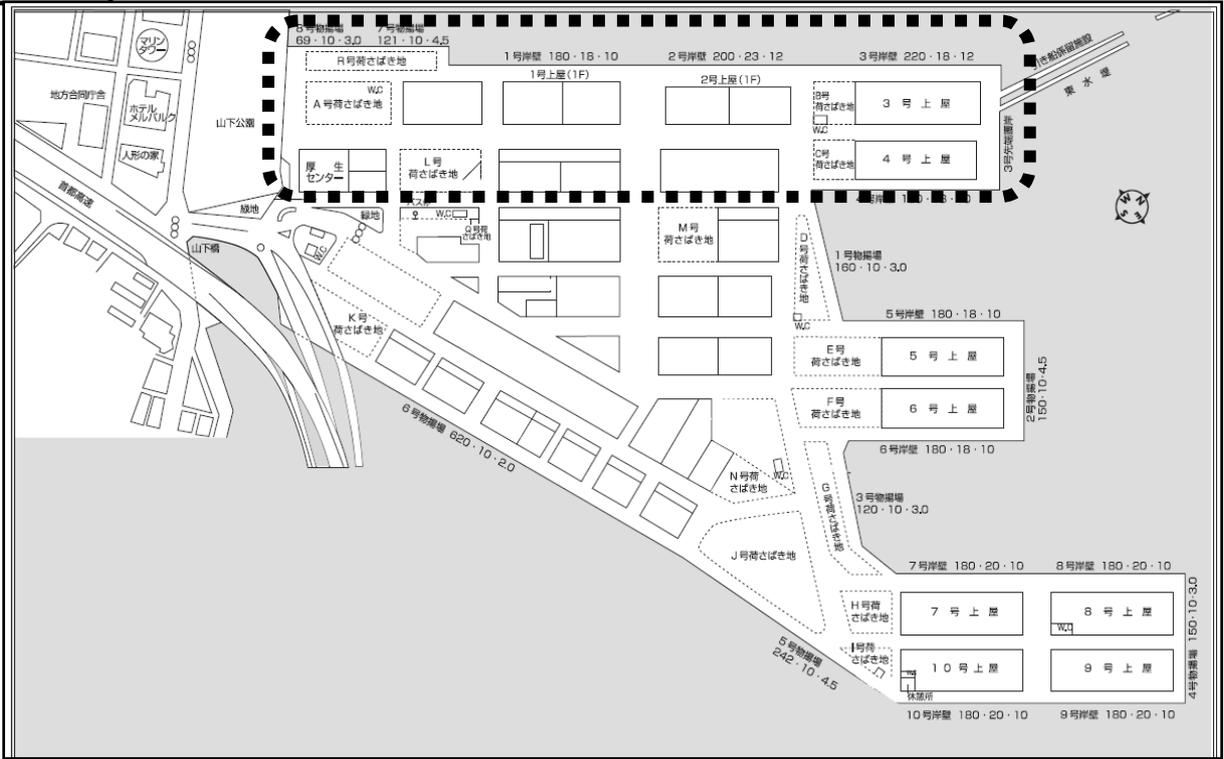
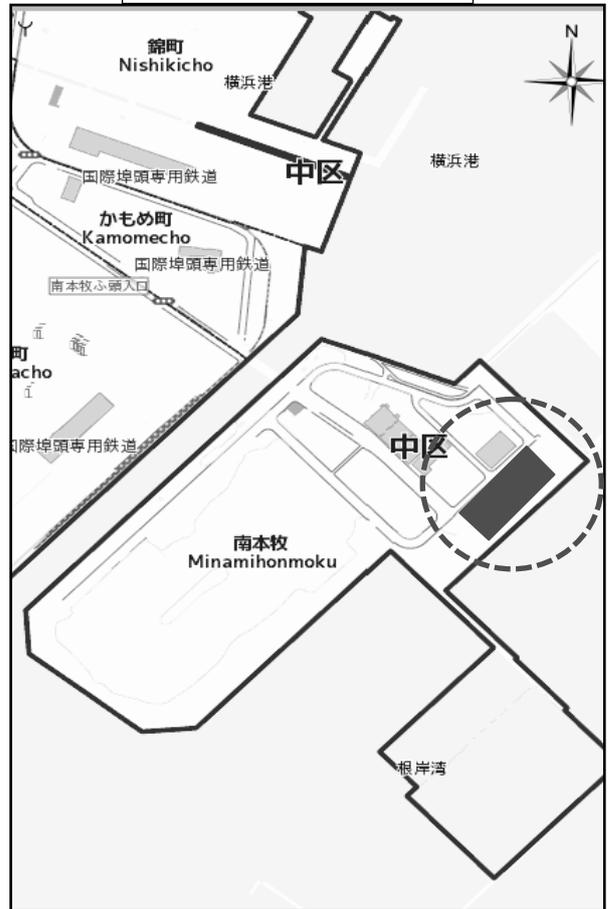
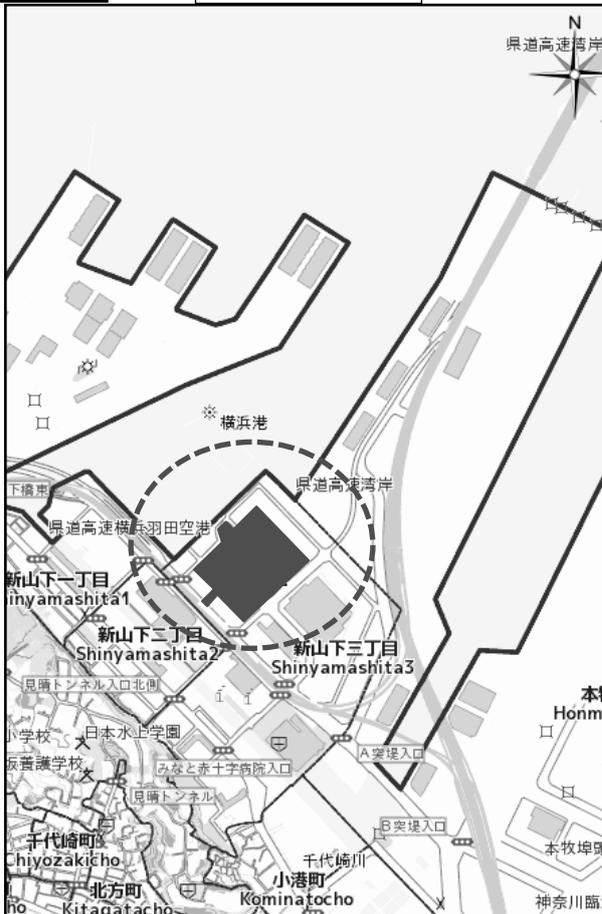


図2

新山下地区

南本牧Eブロック



2 山下ふ頭開発基本計画検討委員会について

(1) 開催状況

- ・平成26年9月4日 第1回委員会
- ・平成26年10月31日 現地視察会
- ・平成26年12月19日 第2回委員会

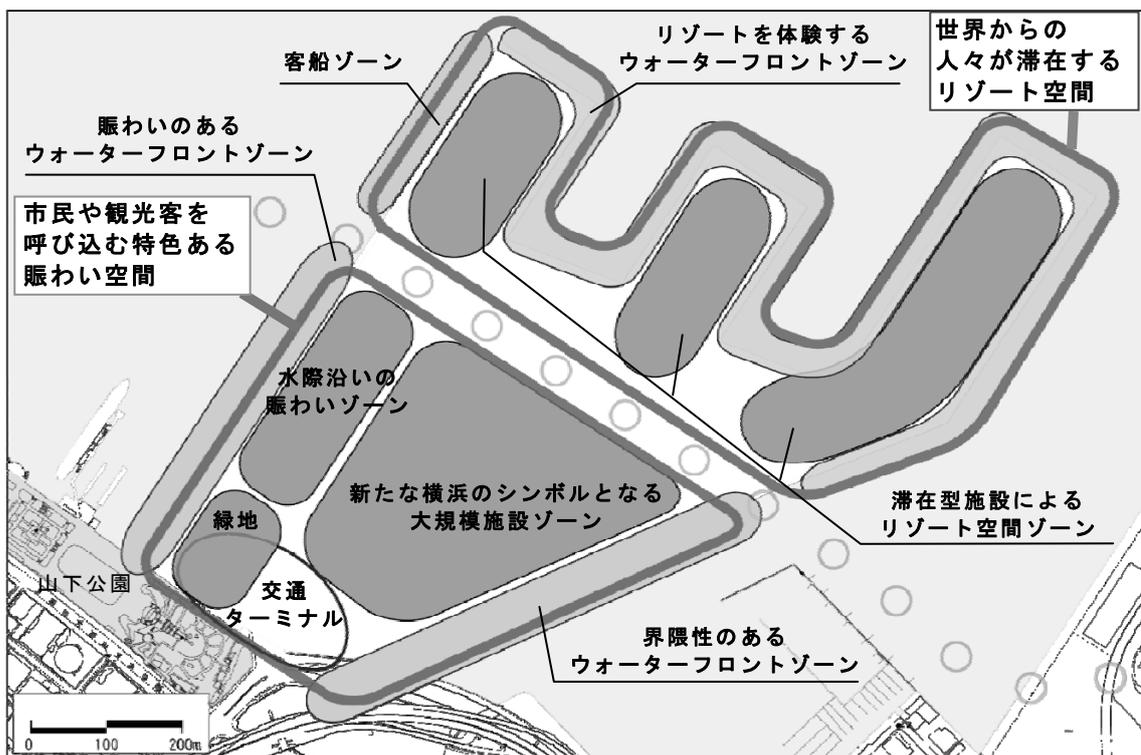
(2) 第2回委員会について

ア 検討内容

- ・土地利用の考え方

山下公園側は、大規模施設や賑わい、緑地、交通ターミナルを含め、市民や観光客を呼び込む特色ある賑わい空間、先端側は、世界からの人々が滞在するリゾート空間を形成します。

また、それぞれの空間において、客船ゾーンをはじめ、特色ある水際線の利用を図ります。



<土地利用の考え方>

このほか、

- ・交通 (地区へのアクセスと地区内の移動)
- ・水域利用 (水域活用のイベント・取組、客船や水上交通等の水上アクセス)
- ・環境 (環境負荷を低減する面的なエネルギーシステム)
- ・景観 (山下ふ頭を望むスカイライン、山下ふ頭からの新たな眺望点)

など、についてご議論いただきました。

イ 主な意見

- ・目的をはっきりさせておく必要があるが、時代によってフレキシブルに対応できるようにすることが必要である。
- ・オールシーズンで楽しめる施設は具体的に何かを考える必要がある。世界の都市を参考にしてはどうか。
- ・緑が少ないと無機質に感じる。人を呼び込むには緑の視点も必要である。
- ・横浜に行きたいと思わせる仕掛け、戦略を考える必要がある。
- ・昼だけでなく、夜の顔も考えた計画が必要である。
- ・電源は、平常時も使いながら、災害時にも確保できるシステムが良い。
- ・景観は、周りに溶け込むのも良いが、ランドマークを作るのも良い。
- ・保安体制や警備など安全についても検討が必要である。

(3) 今後の予定

平成 27 年 3 月 19 日に開催予定の第 3 回委員会において、基本計画の素案を取りまとめ、その後、市民の皆様のご意見を伺ってまいります。